

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	19H05647	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	細胞膜・膜脂質環境動態と共役した受容体機能制御の包括的理解	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	佐甲 靖志 (国立研究開発法人理化学研究所・開拓研究本部・主任研究員)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>本研究は、ヒトの主要な膜受容体である G タンパク質共役受容体 (GPCR) や、チロシン磷酸化酵素型受容体 (RTK) のほぼ全ての分子種について、受容体近傍の膜脂質との相互作用による会合動態、拡散、機能制御を明らかにするものである。</p>		
(意見等)		
<p>これまでに、網羅的な自動解析に向けて、計測装置の整備と解析法の確立、発現ベクター作製や試料調製法の確立、計測条件の検討が進んでいる。研究代表者のグループが独自に開発した自動化1分子計測システムの制御ソフトを改良・安定化し、1分子動画取得からパラメータを取得するまでの一連の解析を高速化・パイプライン化したことから、今後の研究の効率化が期待できる。</p> <p>また、開発したソフトウェアをプラットフォームで公開している点は、研究代表者の研究成果が広く当該研究分野や関連分野で利用されることにつながることを期待され、オープンサイエンスの観点から高く評価できる。</p>		